

11月3日（月・祝）文化の日

東京都文化財ウィーク

# はっけんのもりへ ようこそ！2008

縄文 体験塾  
土笛作り  
縄文食  
火起こし  
弓矢  
筆々

ニュース

みんなでつくろう！  
しまやけべいせき  
下宅部遺跡はっけんのもり

第88号【'08-10月号】

発行：下宅部遺跡  
はっけんのもりを育てる会  
東村山市諏訪町1-6-3  
TEL：042-396-3800  
発行日：平成20年10月14日

平成20年11月3日（月・祝）文化の日、東京都文化財ウィーク関連事業「はっけんのもりへようこそ！2008」を開催します。下宅部遺跡はっけんのもりがオープンして以来の恒例行事で、今年で4回目になります。2006年には活動が認められ、東京都知事賞を受賞しました。昨年度からは「縄文体験塾」の一環としても活動しています。

縄文服を着て、火起こし・弓矢・石身体験、土笛作り・土版ペンダント作り、などなどをしてみよう。

土笛作り・土版ペンダント作りは、そのまま持ち帰ってもかまいませんが、11月15日（土）に同じのはっけんの



火起こしの様子（2007年）



土笛作りの様子（2007年）

もりで野焼きをしますので、その時に取りに来ることもできます。

お昼には縄文食をごちそう。肉をたっぷり使ったシカの縄文スープとイノシシの縄文スープです。キノコやヤマイモなど季節の山菜も入る豪華版。調味料は塩ですが、具材から出るおいしいエキスが決め手です。

開催日 平成20年11月3日（月・祝）  
時間 午前10時から午後3時頃まで  
場所 下宅部遺跡はっけんのもり  
対象 どなたでもご参加ください  
参加費 無料  
問い合わせ ふるさと歴史館

042-396-3800

# 宿泊研修見学会 報告

## 伊藤友己

台風一過の9月20日、私達は新潟県十日町市へ向けて研修旅行の旅に出掛けた。最初に訪れた十日町市内の道の駅「クロス10」では、小中学生の「発明工夫模型展」が開かれていた。何気なく立ち寄ったこの「発明工夫模型展」に、私達は魅了され思わず楽しい時を過ごすこととなったが、この出会いは思いも掛けず今回の旅の導きの糸となった。

まず目を引かれたのは入口正面に置かれた火焰型土器の模型である。小学



ペーパータオルの火焰型土器

六年生の作品だったと思うがペーパータオルを使って作られた土器は、私達が火焰型土器の町にやって来たことを何よりも強く印象付けてくれた。魅かれるままに会場に入ると、そこは子どもたちの夢の展示広場であった。一つの作品を見ていきながら私達は意匠の素晴らしさや着想の豊かさに何度も声をあげたくなる程の感動を覚えた。いま縄文の作



野焼きのある縄文風景

品についてだけ感想を述べてみたい。縄文風景を描き出した箱庭では、縦穴住居の前で、土器を野焼きしている様子が作り込まれている。普通、土器の野焼きなど構成の中に入りようもない代物だ。こんな縄文の時代風景をどうやって子ども達は手に入れたのだろうか？驚いたのはそれだけではない、作品全体に見られたのはただ作品を作るだけでなく、身の回りにある素材を手を使って自分の世界を作り上げていくその仕立て方だ。「只ものではないな」ふっと仕掛けの深さを感じる。

「クロス10」に隣接する越後妻有交流館「キナレ」には体験工房があり、藍染め、織りの簡単な体験が出来る。織物の町、地場の産業の智



「キナレ」の体験工房（藍染め）

慧に裏付けられた体験の質は、私達が何とか辿り着こうとしている見よう見まねの体験とは、やはりひと味違って居ることを思い知らされる。午後を訪れた十日町市博物館で、館内をご説明頂いた水落副参事に「発明工夫模型展」の話をする、学校と連携しての縄文学習についてお話しをされたが、教科書から「縄文時代」が消えたのに併せて、縄文に興味を持つ子が少なくなっただけを嘆いて居られ、来年からの復活に大きな期待を寄せておられた。

十日町市内、笹山遺跡から出土した火焰型土器群（57点）が国宝に指定されていることは有名だが、2004年10月に起こった中越地震で大きな損傷を被ったことは余り知られていない。貴重な文化財を単

に収蔵するだけでなく、私達や次の世代を担う子ども達の為に展示・公開し続けて行くことが如何に大変なお仕事なのか苦勞の一端を垣間見た思いがする。もう一つ忘れてならないのが越後

アンギンの世界である。私達「下宅部はっけんのもりを育てる会」では月例で縄文あんぎん織の部会を開いており、今回の研修旅行の目的の一つも越後アンギンの世界に触れることにある。昨年訪れた山形県米沢市の「原始布・古代織物参考館」でもアンギン織の道具一式と江戸・明治のアンギン織の袖無し数点を見たが、アンギンの実物はいずれも今回訪れた津南町の秋山郷の物であり、その意味でもまたアンギン復活の先駆けの地という意味でも一度は訪ねて見たい場所であった。

十日町市は織物の町である。翌日から開かれる「織物の町のキルト展」の為に目抜き通りの商店のウィンドウには趣向をこらしたキルトが飾られていた。まさに織物の町の大掛かりな仕掛けの中で私達はこの博物館の織物の変遷を示す展示を見ていたことになる。この織物に対するこだわりが戦後、アンギンの歴史を掘り起こし復活への力となったことは間違いない。

実はこの話、翌日訪れた津南町の「歴史民俗資料館」の民俗資料の収集事業に繋がる。

十日町市に隣接した津南町に一泊した私達は、翌朝小雨の中、津南町の「歴史民俗資料館」を訪れた。同館では沖の原遺跡や堂平遺跡から出土した縄文時代の遺物を収蔵・展示しているが、しかしやはり驚くのは収蔵庫に収められた1686点に及び「秋山郷及び周辺地域の山村生産用具」(国重要文化財)の迫力である。

資料館の桑原さんから、様々な民俗資料のご説明を頂いた。何でもかんでも詰め込んだだけと言われたが、確かに大雑把な括りの中で収集されては

いたが、生産用具そのものだけでなくその用具を生産、補修、維持管理するまでの用具が同時に集められているから、物そのものだけでなく使われていた環境を容易に見て取れる事が出来るのがミソとも言える。ここでも私達は越後アンギンの世界に出会うことが出来た。沢山の生活用具の詰まったほの暗い収蔵庫の中で、古代布を編み続けてきた道具達は紡ぎ出された歴史の重みを担いながらも静かに息づいているように思われた。

最後に訪れたのは「農と縄文の体験実習館『なじよもん』」である。今八

国山の麓に建築中の「八国山たいけん の里」と比べれば、考えられぬほどの広い敷地の中に体験館は建っていた。津南町教育委員会の佐藤さんに『なじよもん』の構想と基本的な理念の説明を受けた後、館内の収蔵庫からバックヤードまでの施設を詳しくご案内頂いた。『なじよもん』はサークルとしての友の会、なじよもん応援団という地域のボランティア組織に支えられて、活動は徐々に拡がり深みを増していくようだ。

自ら「学芸員は奇人変人だ」と云われる佐藤さんの文化財教育に対するこ



十日町市博物館 (織物展示)



津南町歴史民俗資料館 (収蔵庫)



津南町歴史民俗資料館 (アンギン道具)



津南町「なじよもん」(ロビー)

「だわりも大した物だ。『なじよもん』と、歴史民俗資料館は両輪だと言われた佐藤さんの言葉が耳に残る。過去の地域社会を支えてきた道具達が生活の臭いと共に息づいている歴史民俗資料館。縄文から現代にまで脈々と繋がる農と民俗の智慧を体験を通じて子ども達へ伝えていこうとする体験実習館『なじよもん』。

もう一度出発点としての「発明工夫模型展」の作品達を思い起こした。多分この地域には、物はただ使う為にあるのではなくて、必要に応じて作り出していくという教育の下地があるから

は、アンギンを通じての交流のお話も頂いた。縄文時代、黒曜石が縄文の集落を繋いでいったように、編み物の材料としてのカラムシが縄文の遺跡を守る地域を繋いでいくことが出来るかも知れない。最後に一つだけ問題を提起しておきたい。越後アンギンの世界は、近世の文献資料に裏付けられ収集された民俗資料と、地域にある縄文の考古遺物が時を超えた太い縦糸で結びあわされた希有な例である。歴史的な時間軸を持たないと言われる民俗学だが、しかしこちらかと云えば近世から近代に軸足を

置いた学問であることも確かである。つまり越後アンギンの世界は「越後」と云われる部分だけ、地域性と時間軸の近代性をもった「アンギン」の世界だと云える。このことを私達はどこかで一度はキチント整理しておく必要が有ると思う。伝承と伝播が民俗学を特徴付ける時間軸だといわれるが、もはや東村山においてさえ民俗風習や、民具を掘

に違いないと思うようになった。私達は「東村山つ子」たちに体験を通してどんな地域の力を伝えていけるだろうか。考えてしまう。



津南町歴史民俗資料館 (アンギン)

り起こすことは困難となっているから、私達は「越後アンギン」に学びながら、縄文の編み物としてのアンギンの姿を追い求めて行かなくては成らないのかも知れない。少し堅苦しくなりましたが、この他にも、地域の伝統と地酒という奥の深い難しいテーマもありましたが、これは何時かご参加頂ける機会が有りましたら、ご報告できるかと思えます。

# はっけんのもり研修旅行

高縁慎吉

今回の旅行は、信濃川流域の河岸段丘を背景に采えた新潟県魚沼郡津南町、及び新・十日町市を往訪した。

地域は縄文草創期（一万二千年前）、弥生時代（二千五百年前）、戦国時代（500年前）そして明治維新を経て、現在は農林業を主体とした土地柄。日本有数の豪雪地帯に、連綿とした素朴な文化を継承してきた地域の、遠大な歴史を感受するための研修旅行である。

20日、7時。台風通過中。千葉に上陸の報を聞きつつ新潟方面へ向かう。天気は上々。老人が多いせいで小用タイムは頻繁。大助かり。所沢インターで高速へ入り、三芳インターで早くも小休止。バスに日が差し込む絶好の秋日和。気持ちいい。

10時半。十日町市に到着。十日町駅近くで、交通安全のデモ行進にあつ



「キナーレ」のキルト展

クシデント。しかし、この商店街での渋滞が幸いし、店先のキルト布地をゆつくり鑑賞できる。十日町が2週間に亘る「キルト展」を企画中なのだ。開催目前に町は明るく、活気がある。思わぬ目の保養ができた。

11時。越後妻有交流館「キナーレ」へ到着。ここも「キルト展」の会場。隣接する道の駅「クロス10」では十日町市主催の（夏休み）小中学生の発明工夫模型展、生物標本展（昆虫、植物採集、岩石採集）が開催されていた。

興味深く拝見した。昼食もここで済ませた。

14時。十日町市博物館。「特色ある博物館として文部省推薦」

十日町市は4つの町村（川西町・中里村・松代町・松之山町）と合併し新・十日町市となる。いまや布地を抜いて、農業生産が上回る市となっている。

「雪と織物と信濃川」がテーマ。展示品の内容も豊富。笹山遺跡から出土した国宝指定の土器群と復元住居などを展示。縄文中期の「火焰型土器群」は圧巻。信濃川流域の多くの遺跡から多数出土する。うらやましい。

旧・中里村は久保寺南遺跡など縄文草創期（1万2千年前）から人類の生活が多く見られる。

笹山遺跡。縄文中期（4千5百年前）の火焰土器が有名。縄文中期・後期の村の跡。発掘された火焰型土器の出土現場には「モニメント」がある。国内初の縄文土器群の国宝発掘地。他の土器も質、量とも豊富。

200mの山腹にあり、眺望が良い。晴れていて良かった。

18時。「ゆのさと雪国」宿泊場所の津南温泉。

雪国旅館は若女将がお出迎え。館内いたるところに「押

し花の額」が氾濫。こんな重厚な押し花額を見るのは初めてである。90歳を過ぎた大女将の力作。

21日、7時。朝の食卓の紙クロスにも押し花が貼り付けてある。これは若女将作。他のお客が置残こした押し花クロスは争奪戦となる。私の目の前のクロスは8種15枚の押し花が貼り付けてある。喜んでお土産にするため、丁寧にたたんだ。

今朝は残念ながら、前夜半からの大雨、バスへの乗車が大変だった。

9時。津南町歴史民俗資料館。国重要文化財（有形民俗文化財）を収蔵。材木が豊富、豪雪地、厳寒期の仕事の3条件があり、秋山郷を中心に地域全体から集められた民具。生産、生活に使われた民具が多数整理展示されて



十日町市「笹山遺跡」屋外レプリカ



津南町「なじよもん」（収蔵展示）

いる。敷地内に300年近く風雪に耐えたかやぶき民家が建つ。約230年前に現地に移築した旧桑原家。つまり旧桑原家の庭に資料館を建てた訳だ。津南段丘には旧石器時代（正面ヶ原遺跡は3万年前の新潟県最古の遺跡）、縄文、弥生、古墳、平安、戦国時代の歴史が埋もれている。

11時。沖の原遺跡（国指定史跡）。竜ヶ窪。全国名水百選。温泉、健康保養地でもある。雨の中、水飲みに走る。美味しかったこと。

11時半。へぎ蕎麦「とみざわ」魚沼地方では江戸時代から蕎麦の繋



津南町「なじよもん」(土層壁)

速利用して資料本を買った。購買意欲が出る、良いアイデアである。火起こし道具に説明書が2種2枚あり、参考のために拝借した。

館外の見物は、残念ながら昨夜からの雨のため足下悪く、バスの中から。

15時。越後湯沢駅の「ぼん酒館」、新潟お酒館。  
小休止を兼ねて、利き酒。

ぎに布海苔(ふのり)を使用。へぎ(片木、剥ぎを語源とする)と称する器にそばを細かく小分けして美しく盛り付け供すおそば。

12時。津南町「なじよもん」。農と縄文の体験実習館。

「なじよもん」は方言の「なじよも(是非何々して)」「と」「じょうもん」の合成語。津南段丘の縄文遺跡の点在する文化の里。広大な敷地。縄文村や初期農業、穀物栽培の実体験ができる。

常設展示には河岸段丘のパノラマ、土層壁。整理室には収蔵展示の土器。見学者には手で触らせてくれる。土器片では無く、接合して器の形になった完形品。土器の数が多いからできること。大きく、重量感あり。

特筆すべきはチケットの半券に館内購入品用の50円金券が付くこと。早

お土産を買い込む。これが最後の訪問地で、全研修工程を終了した。

小生、郷里が富山県。ここからだ2時間の行程。越後湯沢駅でバスを下車することにした。「ほくほく線」に乗り換え、富山県滑川市へ単独出発。

**研修後、感想**

今回の視察先は信濃川流域沿いの河岸段丘の一部だが、それでも広大である。信濃川火焰街道(長岡市、十日町市、津南町)として連携している他の博物館、新潟県立歴史博物館、長岡市立科学博物館などには、遠過ぎて残念ながら行けなかった。

長岡市にも沢山の縄文遺跡がある。火焰土器(重要文化財)とは長岡市馬高遺跡(国指定史跡)から最初に発見の1個に付された土器の愛称だそう。他は「火焰型土器」という。新幹

線長岡駅の乗り換えコンコースには火焰土器のモニュメントがあり、帰郷の度に横目で見て、通り過ぎていた。当時その美しさは驚きであった。

信濃川流域の人々の歩み、旧石器時代、縄文草創期から現代まで、3万年以上連続と続いた生活の跡を、博物館及び生活の現地で見学研修できた喜びは大であった。

**ダウンロードのお知らせ**

「みんなで作ろう！下宅部遺跡はっけんのもり」の各号を、インターネットからダウンロードすることができます。「東村山市ホームページ」↓「ふるさと歴史館」↓「下宅部遺跡」↓「はっけんのもり」↓「ニュース」と開くか、検索サイトで「下宅部遺跡はっけんのもり」ニュースで検索をかけて下さい。カラーでご覧いただけます。

**育てる会 会員募集**

みなさんも育てる会の仲間たちと一緒に、下宅部遺跡はっけんのもりを成長させませんか？

- 正会員：会費年間1200円
- 通信会員：会費80円切手12枚
- お申し込み：ふるさと歴史館
- ☎042(396)3800まで

**育てる会**

**今後の予定**

- 10月18日(土) 午前8時から  
第78回育てる会「ドングリ拾い」  
(新宿御苑・他)
- 10月25日(土) 午前8時から  
除草・清掃作業(はっけんのもり)
- 10月26日(日) 午後1時30分から  
縄文土器部会(ふるさと歴史館)
- 10月28日(火) 午後1時30分から  
縄文アンギン部会(ふるさと歴史館)
- 11月3日(月・祝) 午前10時から  
東京都文化財ウィーク「はっけんのもりへようこそ!2008」  
(はっけんのもり)
- 11月5日(水) 午後7時30分から  
定例検討会議(ふるさと歴史館)
- 11月8日(土) 午前8時から  
除草・清掃作業(はっけんのもり)
- 11月11日(火) 午後1時30分から  
ニュース印刷発行(ふるさと歴史館)
- 11月15日(日) 午前9時から  
第79回育てる会「縄文土器の野焼き」  
(はっけんのもり)
- 11月22日(土) 午前8時から  
除草・清掃作業(はっけんのもり)
- 11月23日(日) 午後1時30分から  
縄文土器部会(ふるさと歴史館)